



ゆんたく 都島

2016 Vol.25

Contents

理事長 巻頭MESSAGE

職員人事異動・新任者紹介インタビュー

Report①リクルートへの取り組み

Report②職員研修の意義/③法人内厚生・クラブ活動紹介

今年の夏の子どもたち/創立85周年記念事業

沖縄「ゆいレールの旅」/比嘉正子地域貢献事業研修センター ひまわりネット

大阪の小学校の現状/ゆんたくinformation

社会福祉法人 都島友の会

『都島児童館』に刻まれているもの

社会福祉法人都島友の会 理事長 渡久地 歌子



▶都島児童館の子どもたちと一緒に

これにより財団法人都島友の会が行う事業は、

- 1 児童福祉法による保育所
- 2 児童福祉法による児童厚生施設
- 3 社会事業法による医療保護
- 4 その目的達成上、必要と認めたる附帯事業 等

ということになり、都島友の会は、保育所であり、児童厚生施設であり、医療施設であり、まさに、揺りかごから墓場まで、幅広い福祉事業を行い、特に地域の方からは1と2を『都島児童館』として親しみを込めて呼ばれてきました。

昭和27年には財団法人から社会福祉法人に変更となり、日本の高度成長と共に、園児、児童人数ともに増え、昭和38年には園舎を増改築、昭和39年7月5日、都島区の学童保育の必要性を中馬馨大阪市長に申請、昭和39年7月15日付に、児童厚生施設「都島児童館」の設置の許可（大阪市指令民第812号）が下りました。

都島友の会には、『都島児童館』という学童期の子どもに向けた複合施設があります。現在、都島に2か所、高倉、中野、友洲、計5か所の生活クラブ、都島児童センターに教育クラブがあり、生活クラブでは放課後、異なった年齢の子どもたちが一緒に予習や復習など勉学に励み、学校や家庭ではなかなか出ないさまざまな遊びや体験を通して、自ら考える力、社会性、そして優しさや思いやりといった情操力を養っています。また教育クラブでは専任の先生から、絵画、ピアノ、英語や書道、モダンバレエなど、質の高いレッスンを受け、豊かな感受性や学力を身につけていきます。

さて『都島児童館』は、現在のこうした学童期の子どもたちが通う施設であると共に、私たちにとってかけがえのない法人の歴史や原点ともいべき精神がそこに刻まれています。私たちにとって『都島児童館』とは何であるのか、少し書き記してみたいと思います。

今から85年前、創設者比嘉正子は都島の地に青空保育園を創設、その後名称を都島幼稚園と変えますが、託児所的な性格と幼稚園的な教育的要素を兼ね備えた保育施設として、都島の人々から愛され、順調に発展を遂げてきました。しかし満州事変、上海事変、太平洋戦争の勃発と、日本は全面的な戦時体制となり、夫や若者は戦争へ、妻や婦人は軍需工場へ動員、物資は欠乏し、食料は配給制度となり、配給だけでは栄養失調になっていく時代となります。昭和20年3月13日、戦時状況から大阪府知事より都島幼稚園に

昭和39年7月15日、許可が下りた「都島児童館」の設置目的と事業内容

◆事業内容及び効果

事業内容	対象	人数	地域	効果
学童保育	小1～3年	30	都島・東都島小学校下	学習と保育
学習クラブ	小1～6年	25	〃	学力の向上
珠算クラブ	小2～中3年	20	〃	能力の向上
絵画クラブ	幼～小4年	50	〃	美術教育
習字クラブ	小1～中3年	30	〃	〃
バレエクラブ	幼～小4年	10	〃	体育効果

▲都島児童館設置許可書

閉鎖命令が下され、園を余儀なく閉鎖することになりました。それから3ヶ月後の6月には大阪が大空襲を受け、都島は焼野原に、園舎は全焼してしまいます。そして終戦。

戦争末期の非常時の窮乏の中で、比嘉正子は、長女、長男を次々と病で亡くしてしまっています。最愛のわが子を失い、精魂込めて作り上げた園舎を焼かれ、信じていた愛国の精神を打ち砕かれ、彼女は戦後、疎開先で打ちひしがれた日々を送っていました。

ところが疎開先のもとへ、「助けて下さい、疎開から帰れない」「働き場がない、住む所がない」「夫は戦地から帰ってこない、生活に困っている」との母親たちからの手紙。戦前の卒園生たちからも「行き場をなくした子どもたちが京橋で、天六の闇市で、拾い食いをして」「焼跡の整理は何かぼくらで引き受けるので、すぐ帰って来て下さい」との声。大阪の街は両親を失ったいわゆる浮浪児たちがあふれていました。疲れ切った母親の姿、小学生が小さい子を背負って学校へ行く姿、教室では幼い妹や弟がうろろしている…。

そのような光景を目の当たりにして、死んだ我が子に懺悔をし、もう二度と仕事はすまいと悔いていた彼女ですが、我が子の墓を建てるためと必死に貯めたお金を、困窮し苦しんでいる人たちにこそ使うべきだと思いを新たに焼失した園の再建に取りかかります。まだ日本国憲法も発布されず、児童福祉も何も無い、まさに混乱した只中でのことです。

地域の人たちが卒園生たちの力も借りて、ようやく昭和24年11月、バラック小屋なこの設置許可により都島児童館の中には、

- ・長時間保育を必要とする保育部
- ・短時間保育を必要とする幼児部
- ・放課後学習と保育を必要とする学童保育
- ・保護者交流会、保護者会

が、同施設内に併設されたことになりました。

昭和35年に、都島保育所から乳児部が独立。昭和41年全国初の乳児専門保育所、都島乳児保育センターが誕生します。昭和47年には都島保育所、都島児童館（教育クラブ、放課後児童）が老朽化した木造から、安全、安心な鉄筋コンクリートの建築物に建て替わります。

それから40年後、平成26年には現在の都島児童センターの建替が行われ、都島保育所も、幼保連携型認定こども園となりました。都島保育所の建物内にあつた放課後児童健全育成事業は、平成27年4月1日には、都島生活クラブ、友洲生活クラブ、高倉生活クラブ、中野生活クラブ、計4か所で行うことになり、教育クラブを都島児童センター内で行うことになりました。

から、住宅と併設した子どもたちのための「雀のお宿」が完成します。それが、『都島児童館』のはじまりです。

バラック小屋でも、子どもたち、地域の皆さんは大喜び。"雨風はしのげる。" 児童館へ行けば何か食べられる。" 妹、弟を背負って学校へ連れて行かなくても児童館で預かってくれる。" 習字、そろばん、絵、何か教えてもらえる。" ……とにかく何もかもが欠乏し、子どもたちの心ならず、目の前にある困りごと、相談事、親も子も、そしてお年寄りも、何もかもが混然一体となった、そんなスタートでした。

都島児童館には珍しい堀こたつ式の図書室を拵え、それがマスコミにも取り上げられて、だんだんと広く名を知られるようになっていきました。ある時、小学生の子どもを1人あずかった事から2人3人と増え、学童の集団形成が大きくなっていきます。保育部の職員、ボランティアの人たち、お稽古の先生方、皆がごく自然に、学童の子どもたちの面倒を見るようになり、勉強を教えるようになり、習い事も始まりました。もちろん無料です。誰もが人々から求められているものに一杯応える、応えねばならないという奉仕精神一筋の行為であったのだと思います。

行政もこれに注目するようになり、補助金が出るようになり、指導員の配置ができるようになったのはずっとずっと後の事です。

戦後の混乱した只中からようやく制度や法整備が整う中、昭和25年3月10日、都島友の会は、大阪府知事赤間文三から財団法人として許可されました。

しかしこれらの各施設が現在行っていることは、戦後、まだ法律や制度も整わぬ中、焼け跡の中から『都島児童館』を立ち上げ、地域やボランティアの人たちのご助力と共に、目の前の困っている方々に手を差し伸べようという力を振り絞ってきたその活動の中に、実は種子として萌芽としてみんな内在していたものです。

都島友の会という法人に、そして『都島児童館』という名前に一貫して流れているものは、それは制度や法律以前に、あるいは法律や制度のはざままで、今日の前に困っている方がおられるのなら、耳を傾け、手を差し伸べ、出来る限り支えようとする、その精神、心なだけではいかと思います。私たちの先人たちがそうしてきたように、今日の時代、そして将来にあつても、私たちはその心、その精神、そしてその志を忘れず、たゆまず歩んでいきたいと思えます。



都島児童館（昭和25年頃）

都島乳児保育センター 施設長

山口涼子

「所変われば そこが我が家」何度も聞いた「はなむけのお言葉」。一言で「乳児」と言っても、その発達過程や成長の流れが違い、何よりも「泣くこと」「食育すること」「寝ること」の人としての基本的な生活習慣がとても重要になる数年・昼夜の時に遊びたくて横になれない子に「大人になれば無理して起きなくちゃいけない時が来るんだから～」とヘンな説得をしています。私自身も生活習慣の見直し地点です!

都島第二乳児保育センター 主任

守屋美智子

昨年4月に児童館から都島乳児保育センターに異動し、改めて乳児保育を学ぶ機会を頂きました。小さいながらも私に抱き付けてくれる姿が、とても新鮮で癒されながら毎日を過ごしました。今年の4月はその子どもたちと都島第二乳児保育センターへ進級=異動しました。自分のこれまでの経験を生かし、在宅保育にも目を向け、今求められる保育や支援に向き合って努めていきたいと思っています。

右から山口涼子、守屋美智子、千代登代

都島乳児保育センター 主任

千代登代

主任昇格の話聞いた時は正直、戸惑い不安もありましたが先輩たちから助言をいただき「頑張ってみよう」と新しい気持ちで平成28年度を迎えました。体は賁禄があるものの行事など前に出るのは、まだまだ緊張しますが心の余裕も子ども・保護者の方・職員みんなを受け止められるような主任になりたいと思います。



都島友洲乳児保育センター 主任

西田直未

2度目の友洲乳児保育センター勤務となり、0歳児クラスだった子どもたちが2歳児クラスになって「大きくなって〜!」(当然なのですが笑)と嬉しい再会をしました。

昨年「スマイルサポーター」の研修を受け、子育て中の保護者の方のお力になれればと思っています。改まった相談だけではなく、何気ない子どもたちの様子や日々の愚痴等々…。気軽に話せる「敷居の低い」事務所をめざしています。どうぞよろしくお願いいたします。



幼保連携型認定こども園 成育児童センター 副園長

山下知子

成育児童センターへの1回目の異動は平成22年の開園後の冬でした。みんなで協力して、今の成育児童センターを築いてきたと思っています。そして今年度、再び異動で戻ってきました。これまで以上に日々の保育を見直し、子どもも保護者も保育者も、キラキラした毎日を過ごせるようにサポートしたいです。



都島友洲乳児保育センター 施設長

吉本 希

1度目の着任は平成21年。1年後、都島友洲保育園(当時)へ異動となり、3年を経て平成25年に2度目の友洲乳児。1年後友洲保育園へ戻り、またまた今回平成28年8月に友洲乳児へ。今回3度目です。職員はほぼ顔なじみのメンバー、子どもたち、保護者の方々が初日から温かく受け入れてくれたことに感謝です。都島友洲乳児保育センターと友洲児童センターがこれからもますます一体となっていけるよう努めていきたいと思っています。



Staff reassignment Information

平成28年度 都島友の会 新園長(施設長)&副園長、主任の紹介

平成28年は法人創設85周年を迎えた記念すべき年。今年も多く職員が異動や昇格を果たし、心機一転、新しい環境、新しい立場で、日々、頑張っています。今回、異動・昇格をした園長(施設長)、副園長、ならびに主任を紹介し、そのメッセージをお届けします。

幼保連携型認定こども園 友洲児童センター 副園長

岡本千恵

8月。新しい場所でのスタート。慣れないことも多く、子どもたちに教えてもらうこともしばしば。周囲の温かい支えに日々、感謝。当たり前だったことも再度確認しながら、出来る事から一つずつ...コツコツを積み上げ、いつの日か『友洲の岡本』と覚えてもらえるように“自分らしく”頑張ります。



特別養護老人ホーム ひまわりの郷 施設長

海老子隆一

8月1日付で、友洲乳児保育センターから以前いた老人施設の施設長に異動しました。3年4か月ぶりにもどることになりました。「ひまわりの郷」だけに、まさに「さと帰り」です。年度途中でもあり、急な異動でしたので、保育園の関係、皆さんにはご迷惑をおかけすることになりました。にもかかわらず、別れを惜んでくださり、とても恐縮いたしました。すでに1か月ほど経ちましたが、今は十数年前に戻ったような気分で、こちらでも皆さんに温かく迎え入れられているように思います。これから、入居者や職員のため懸命に取り組みたいと思っています。よろしくお願いします。



松尾彰悟

特別養護老人ホーム ひまわりの郷 総務主任

こんにちは。特別養護老人ホームひまわりの郷の松尾彰悟と申します。都島友の会にお世話になり10年が経ちました。今の私があるのは本当に周りの皆様のあたたかいお力添えがあってこそだと思っております。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。10年ひと区切り、また、この6月から法人本部で仕事することになりました。これからも初心を忘れず、任命して頂いた総務主任の肩書に相応しい人物になれますよう日々精進して参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。



特別養護老人ホーム ひまわりの郷 運営主任

中田 純

この度、ひまわりの郷の運営主任を拝しました中田です。介護の世界に入り、はや17年が経ちました。これからも「人を楽しませるには、まず自分が楽しむこと」をモットーに、初心を忘れることなく、利用者さんと職員が共に笑顔で過ごせるような施設作りに全力で取り組んでいきます。



特別養護老人ホーム ひまわりの郷 運営主任

入江武司

多くの人に支えられて昇進できたと思っています。事業主任として、「個人で成果を上げる」のではなく、「チームで成果をあげる」ことを心掛けながら、施設が抱えている課題を施設長を中心に、他の職員と協力して、課題を克服していきます。



幼保連携型認定こども園 都島児童センター 園長

丸山智子

法人内異動で平成28年4月に都島児童センターの園長になり、赤ちゃんだった子どもたちの成長を傍で見守っていただけることはとても嬉しいことです。創立85周年を迎えた歴史と伝統のある都島友の会。子ども・保護者・職員だけでなく地域の方々に支えられて歩んできました。そして、たくさんの職員で築いてきた都島児童センターの教育・保育を一人ひとりの子どもたちを大切にしながら今後も職員一体となって取り組んでいきたいと思っています。

副園長

岩本真弓

法人に採用されて何度か異動を経験しながら、11年ぶりの都島児童センターの配属は三度目です。都島第二乳児保育センターの子どもたち55名と共に来たこと、先に進級していた5歳児、4歳児の子どもたちがいたことが私にとってはとても心強く、今は0歳児から5歳児まで300名の子どもたちと毎日いろいろな活動の中で楽しく過ごしています。日々の子どもたちの成長を保護者の方と共に喜びながら、建て替えて3年たった建物の環境整備や子どもたちの安全を守り、これからも私自身も成長していくよう、頑張っていきます。

右から丸山智子、錦城栄旭、岩本真弓



特別養護老人ホーム ひまわりの郷 運営主任

田中浩司

『ひまわりの郷』で運営主任に昇進しました田中浩司です。ひまわりの郷では主に介護支援専門員の業務をしていますが、これからは施設内の業務だけではなく、法人全体を見渡せる広い視野を持たねばと考えを新たにしました。家庭では3児のパパとしても奮闘中です。仕事も家庭も両立しながら充実した日々を過ごせるよう精進して参ります。



友洲地域在宅サービスステーション ひまわり 主任

石井昭博

今回、主任に任命いただき、嬉しい反面その責任の重大さを改めて痛感しております。友洲デイサービスでは、利用者様と毎日過ごす中で、ひまわりを利用して良かったと感じていただけますよう、日々精進しています。今後も様々な取り組みを行い、創意工夫をしながら、満足していただけますよう、頑張りますのでよろしくお願いいたします。



就職フェア



保育実習



採用試験



保育実習



マイナビ

Report 1 平成29年度に向けてのリクルート活動!

取材・文/認定こども園 友瀨児童センター 永野 美智子

近年、マスコミでも大きく取り上げられている保育士不足…。しかし大切なのは保育士の量の確保ではありません。質の高い幼児教育はその後の子どもの成長発達に肯定的な影響を与えることが最近の研究で大きく取り上げられ、幼児教育の重要性が一層クローズアップされています。これは幼児教育を通じて意欲や自尊心、創造性などの非認知能力が高まるためだと考えられています。当法人でも次年度に向けて、優秀な人材の確保のために、養成校への訪問をはじめ、法人案内のパンフレットの作成、マイナビや当法人HPでの求人募集の掲載など、積極的な広報活動や情報提供を行っています。

法人採用説明会

友の会の歴史や施設の紹介をし、参加された方は真剣な表情で聞いておられました。8月4日の説明会では職員が「バナナチップス体操」を披露しました。最初は恥ずかしそうでしたが、職員を見ながら徐々に楽しそうに一緒に体操してくれていました。最後は質問タイム!「学生時代にしておいた方がいいことは?」などたくさん質問ができてきて時は笑いもあり、和やかな雰囲気でした。

成育児童センター 矢田 優

法人採用説明会

開催日
6月26日、8月4日、9月6日

保育実習生・インターンシップの学生や各園の卒園児も一緒に働いています

年間を通して多くの実習生を受け入れています。教科書では知ることができない子どもの姿を学ぶことが保育所実習の目的です。2週間と短い実習期間の中で、子どもと関わりながら楽しい、大変だけれどやりがいのある仕事だな、と感じてもらえると嬉しいです。また、実習生だけでなく卒園児が法人に魅力を感じて採用試験を受験している人もいます。



▲保育実習の様子



採用試験

8月20日(土)に1回目の採用試験を行いました。



就職フェア①

～学生時代に参加して～

昨年、学生時代に就職フェアに参加した際、施設概要や子どもたちの一日の生活の様子など、一つずつ丁寧に教えていただきました。「子どもたちと接し、日々過ごす中で、たくさんパワーがもらえますよ!」という言葉が一番印象に残っています。また、お話ししてくれた職員の方が、みなさんとても笑顔だったので、楽しい職場なんだろうなと感じ、この法人で働きたいと決めました。

都島桜宮保育園 早松 萌

就職フェア②

～職員として参加して～

就職フェアに参加し、様々な福祉の分野で働きたいと希望する学生たちと関わる中、保育士を目指す学生が少ないことに驚きました。保育士不足の現状を目の当たりにし、少しでも保育に興味を持ってくれる学生が増えるように、実習や小・中学生のボランティア体験などの活動を通して実際に子どもたちと関わる機会を持ってもらうことは大切だと感じました。そして、保育の良さ、楽しさを伝えていきたいと思っています。

都島児童センター 山内 優子

出身校への訪問

母校、四條畷学園短期大学を訪問してきました。就職案内を渡し、法人のアピールや私が就職して感じたことを話し、また現学生の就職希望の状況などを聞かせていただきました。私は、まだまだ経験が無いため失敗することが多く、悩むことがたくさんありますが、多くの先輩から色々なことを日々学べ、毎日子どもと過ごすことで成長を身近で見ることができ、保育士になつてよかったと思っています。この思いが恩師と後輩たちに伝わり、一人でも多くの学生が保育士になつてくれると嬉しいです。

友瀨児童センター 友國 陽子



▲大阪市私立保育園連盟 保育士就職フェア

就職フェア



▲福祉の就職総合フェア 2016 in OSAKA

私は大学時代、都島児童センターで3年間インターンシップをしていました。毎週1回子どもたちと過ごす中で子どもたちの日々の成長を感じるもたちの日々の成長を感じるもと共に私もたくさん経験をすることができました。運動会や発表会など法人内の園が合で行う行事も多く、日常とは違う現場や先生方の指導の姿を見て「私もこの園で働きたい」と思い就職試験を受けました。

都島児童センター 新見 有果梨

2歳児から都島友の会でお世話になりました。毎日先生のそばで話を聞いたり、先生のお手伝いなど日々楽しく過ごしたことが、愛情を持ち接して下さった先生方のことを今でも鮮明に覚えています。また、カラフルなエプロンに憧れたことも覚えています。その為、当時から将来の夢は保育園の先生になりたいと強く思うようになりました。そして、今年一年目としてスタートした保育士。まだ学ぶことや経験して知ることが日々の保育の中で沢山あります。私にとって大好きな子どもたちや丁寧な先生に教えてくださる先輩方がいるからこそ都島友の会は大切な思い出が詰まっています。素敵な職場です。

都島児童センター 山口 晃穂

正子地域貢献事業	5月27日	気になる保護者への対応
正子地域貢献事業	6月20日	保健新人研修 講師：法人看護士
正子地域貢献事業	6月27日	保健新人研修 講師：法人看護士 配慮が必要な保護者への対応 気になる保護者への支援について
正子地域貢献事業	7月6日	社会福祉の歴史 講師：寄瀬局長
正子地域貢献事業	7月13日	子どもたちのかわり方～日々の生活 講師：岩本、岡本 副園長
正子地域貢献事業	7月28・29日	石井十次DVD鑑賞 研修
正子地域貢献事業	8月2日	ふれあい運動あそび 講師：ウェルネス
正子地域貢献事業	8月17日	乳児保育
正子地域貢献事業	8月23日	救命の研修

研修日	研修内容
5月13日	幼児食育講座
6月12日	幼児マーチング&CD鼓隊講習会
6月16日	認定こども園協会大阪支部 平成28年度総会
6月18日	子どもの体力・運動能力を高める
6月24日	平成28年度



Report.2

職員研修について

学んだことを最大限生かすために

認定こども園 都島児童センター 小倉 早織



▲園内研修の様子

ない職員全体が身につくように、研修報告を行う場を定期的に設け、研修で学んだことを職員全体に伝えるようにしています。また研修後一定期間が経過してから、職場や職員にどのような変換をもたらすことができただのかを検証しなければなりません。こうした手順をしっかりと踏んでこそ、研修の成果は現れるのだと思います。

都島友の会では、職員の声をもとに様々なテーマについて追及していきます。今後も職員皆が声を出していき、意欲的に学ぶ機会を作り、参加していきたいと思えます。

他にもたくさんあると思いますが、大きくは以上の点が大切だと感じています。

私自身、1年目や2年目など新人の頃は、とすれば「研修に行かされている」と感じていましたが、年数を重ね、仕事に対する責任感が増すとともに、色々な人の意見を聞くことが新鮮で貴重なものとなりました。研修内容や研修を受けて自分の感じたことを、職員間に伝え合えることで園全体のポトムアップ、スキルアップにつながると感じるようになったのです。

都島友の会では、社会福祉事業の社会的意義を学ぶとともに、職員が法人の理念を正しく理解し、教育保育、療育、介護、それぞれの質の向上を図るために法人内で様々な研修会を実施しています。

今回は一職員の立場から、法人で行われる研修、その意義について少し考えてみたいと思います。

まず研修を受ける側の立場として…

- ・自分自身のスキルアップを図ることが出来る。
- ・研修を受けることで新たな知識や情報を得、自分自身のスキルアップとなる。また研修を受けたらその内容を園の職員にすぐにフィードバックすることで、いつも研修内容の理解が深まり、知識や情報を他の職員に分け与え、共有することで全体のポトムアップに繋がっていく。
- ・様々な意見、多様な考えを知ることが出来る。

研修で教わることで全てが正解だとは思わないが、色々な人の考え方、自分とは違った視点での物事の捉え方を知ることができ、また多くの人と意見を交わすことで、自分自身の知識や考えの幅が広がり、理解も深まってくる。

他にもたくさんあると思いますが、大きくは以上の点が大切だと感じています。

法人&園全体のスキルアップ

チーム全体のスキルアップ
自分自身のスキルアップ

- ・研究発表の内容に対する理解の深まり
- ・コミュニケーション能力の向上
- ・学問や技術の質の向上

- ・新たな知識や情報の習得
- ・多種多様な考え方に対する柔軟性



研修の目的は、「知る」だけでなく、実践することで「出来る」ようになること



▲研修「生活困窮者自立支援制度が意味するもの」

次は、研修を行う側の立場としての研修の意義です。その例として、「リスクマネジメント委員会」や「食育委員会」「看護師連絡会」など園にある各委員会の実施する研修から考えてみました。

- ・研修を行う上で、参加する人たちにとって内容をいかにわかりやすく伝えていくかを、試行錯誤した上で題材を作っていくので、発表するテーマが明確になる。
- ・事前に研修発表を行うチーム内で題材について話を密に行うことで、全員の理解が深まり、広くコミュニケーションが図れる。
- ・発表後の質疑応答に充分応えられるように準備することで、様々な角度から題材について検討することが出来る、テーマそのものの質を高めることが出来る。

このように、研修を受ける側、実施発表する側、どちらに身を置いても、職員のスキルアップに繋がることが出来る、受ける側、発表する側、両方の立場に立つことでいっそう質の向上を図れるように思えます。もちろん研修を受け、スキルアップするといっても、ただ話を聞いて知識をつけるだけでは意味がありません。何よりも大切なのは、良いと感じたことを「実践」してみること。実践してみ、本当にその方法が園にとって良いのかを見極めながら進めていくことが必要だと感じています。

参加した研修の内容を次の日に保育に取り入れてみました。ここはもつとこうした方が子どもたちに伝わりやすいなと気づくこともでき、学んだことに対して自分なりの知識をつけ加えることも必要だと感じることができました。年間を通して様々な研修に参加し、もちろん参加してい

各園・各施設では、食事会やレクレーション、旅行も活発に！

各園・各施設では厚生係が企画をし、職員の交流やチームワーク、コミュニケーションの活性化などを目的に、イベントや旅行、食事会に出かけています。

都島乳児保育センター
都島第二乳児保育センター



職員旅行で、ヨーデルの森へ行き、大自然の中で遊びました。

都島東保育園



職員旅行でミステリーツアー「行き先はどこ？」着いた先は、焼き体験ができるおかし処 吉備の舎、赤磐酒造、オリーブ園、さて、私たちはどこへ行ったでしょう？

都島友洲乳児保育センター



海老子園長の送別会。みんなで美味しい食事しながらの、カラオケ大会!!

認定こども園 成育児童センター



蒲生4丁目にある韓国料理店へ。水晶板でお肉を焼くスタイル!イベントで、大阪プロレスの方が来られたので記念撮影

都島桜宮保育園



8月5日(金)、ボウリング大会!!チーム対抗で白熱したバトルが繰り広げられ、大盛り上がり!ボウリングを通してコミュニケーションを取り、親睦を深めることができました。

認定こども園 都島児童センター



H28年度新人歓迎会。H27年度は厚生旅行へ。行き先は兵庫県丹波篠山の「ウエルネスこども村」。昔保育園だった建物を改築した部屋に、広い庭でのバーベキュー、そして夜にはキャンプファイヤー。2日目にはパラグライダーやガラス工芸にも挑戦。

こども発達サポートステーション それいゆ



暑気払いに行ってきました。美味しい食事と飲み物でこの時ばかりは仕事を忘れてプライベートに盛り上がりました。年に数回開催される食事会が職員の親睦を深め、仕事の活力となっています。

ひまわりの郷



スタッフ男4人で九州(熊本・鹿児島)旅行

認定こども園 友洲児童センター



運動会・発表会などの前後に集まり、プチ慰労会

仕事中心の日々でも、今回紹介したいろいろなりフレッシュ方法を利用し、次の仕事への意欲につなげています。

職員一人ひとりが Report.3 充実した日々を過ごすために。

都島友洲乳児保育センター 平井 里佳

都島友の会では、いきいきと働くことのできる職場づくりを目指し、従来から福利厚生の充実に力を注いでいます。日々、保育や介護の現場で一所懸命頑張っている職員たちだからこそ、時に心身ともにリフレッシュすることは大切。スポーツやレクレーション、旅行、そして法人の職員同士が楽しく交流できる懇話会など、法人が行っている様々なイベントやクラブ活動など、一人ひとりの職員が充実した日々を過ごすための活動を紹介합니다。

ビールパーティー



かんぱーい!



ゴスペル

都島児童センターによる新喜劇

まずは、比周(ひまわり)会。法人全体の職員の親睦を深める目的で昭和53年に発足し、今年で38年目を迎えました。法人内新聞の発行、夏のビールパーティーや年末の忘年会は、プロ顔負けのダンスや合奏、新喜劇やら、毎年各施設が順番に担当し、趣向を凝らした余興や一芸を披露、日ごろの疲れを一気にふきとばすような楽しい一時を過ごします。

今年度も通例のイベントやレクレーションのみならず、10月21日には韓流歌手を招いての各施設の非正規職員やボランティアさんとの懇話会、11月には高齢施設職員との懇話会を行うなど、職員のユニークな企画力やアイデア、運営力も見所です。

スポーツや音楽を通じて生まれる団結力が、職場でのチームワークを育む



子どもたちと共に楽しむ和太鼓、また職員同士力を合わせリズムに集う時間。力が入っています。他にはフットサル部とコーラス部があります。

フットサル部は友人、元職員なども入れて15名ほど。社会福祉法人「育徳園」のフットサルチームとも定期的に合同練習をさせてもらっています。試合は、年に2回大学時代の友人が主催する大会に参加し、毎回、10チーム中6位や7位といった、ちょっと中途半端な結果です(笑)

コーラス部は6月の85周年発表会で各施設の職員50名以上が、「OH HAPPY DAY」を披露。力強い歌声が響きました。



職員同士の交流を深めるためのクラブ活動としてバレーボールをはじめ、和太鼓、フットサルに取り組んでいます。スポーツや音楽を職員同士が共に楽しむ事で生まれる結束が、職場で求められるチームワークにも繋がっています。

バレーボールチームは30年以上前にクラブ活動第1号として発足。毎年福祉施設職員バレーボール大会に出場し、2年連続優勝した実績もあります。

和太鼓部では85周年記念発表会や職員の懇親会、デイサービスリフォーム祝賀会にと腕をふるう行事が続きます。





そうめん流し



認定こども園 都島児童センター／塚本 千尋

蝉の泣き声が響く中、七夕様にちなんで、恒例のそうめん流しが行われました。各クラスピロティエーでおつの中に入ったお椀とお箸やフォークを持って、ドキドキしながら今が今かと全員がそうめんの流れくる竹の先端を見つけていました。そうめんが流れ始めると表情は一変!! そうめんを掏うことに夢中になりすぎてお椀の中がそうめんだらけに…。そうめんと一緒につゆも飲んでしまうというハプニングもあって大騒ぎ! 暑い夏を涼しげなそうめん流しで夢中になる子どもたちの真剣な姿、お腹もさぞや満たされた一日となったことでしょう。



子どもたちの夏のあそび



今年の夏も暑い日が続きました。空は青くきらきら輝き、木々の青葉もまばゆく、子どもたちは自然の中や戸外で、多くの、そして様々な経験をして来たようです。ここに発見や感動をいつつめこんで、体力もぐんと向上し、いつのまにか自信がついてきた子どもたち。長くも短かった夏、短くも長かった夏。それぞれの夏がたくさん喜びとともにこれからの一歩へとつながっていき、子どもたちは一まわりも二まわりも成長していきます。

都島乳児保育センター／東森 郁枝

夏と言えばプールや沐浴、色水あそび、ボディペインティング・・・、暑い中でも子どもたちはさまざまな遊びに夢中です。はじめは保育者の様子を見ていた子どもたち。絵の具を指につけると、なんだこれ!? と不思議そうに見つめる姿も一。でも、少しすると絵の具の感触を楽しみ、気がつけば模造紙いっぱい元気な色が塗られていました。最後には紙だけではあそび足らず、体にも絵の具を塗って、気持ち悪さや気持ち良さ、いろんな感覚を感じて開放感で大喜び!! そのあとのシャワー、冷たいけれど、触りたい! と手を伸ばし、「ちゅめた!」と顔をくちゃくちゃに、絵の具を落として楽しむ子どもたちの可愛い声が聞こえ、初めての経験で心も体もよりいっそう成長したように感じた夏でした。



運動会に向けての体力づくり



都島第二乳児保育センター／松浦 亜耶

暑い最中、子どもたちは走ったり、跳んだり、蹴ったり、よじ登ったり、体を十分に動かして遊び、秋の大イベント、大好きな運動会に向けて、楽しみながら体力づくりにも努めました。乳児クラスの子どもたちは散歩に出掛け、少しずつ距離を伸ばしていくことで体力をつけます。園舎の階段を利用し足腰を強くしたり、遊具を使った運動あそびでバランス感覚を身につけ、自然に自分の体の使い方を身につけることができるようになりました。幼児クラスでは個人縄跳びや大縄跳び、エンドレスリレー(勝ち負け関係なく、時間を決めて走り続けるリレー)を取り入れたりと、体育演技の中でブリッジやトンボなどの姿勢で数秒キープしたりと、体力の強化だけでなくバランス感覚や忍耐力も養っていきます。また年長児が館内放送で挨拶をし、みんなでラジオ体操をする園もあり、幼児クラスになると指先までしっかりと意識して身体を動かしています。一人ひとりの健康管理に十分留意し、活動と休息のバランスに配慮しながら、『継続は力なり』、子どもたちは、夏の季節を毎日、体力づくりに励んだようです。



“成長”という景色

今年の夏の子どもたち

都島児童館／岸本 貴裕
夏の一大イベント「合同合宿」で一番楽しかったことを尋ねると、ある男の子が少し考えてから、「ロビーかな」と答える。水族館で見たイルカショーや、真っ暗になるまで頑張った飯盒炊爨、自然のなかで遊んだウォークラリーや水合戦といった出来事ではなく、宿泊施設のロビーで友だちと過ごした時間が思い出になっているのだろう。子どもたちにとっては何気ない日常の積み重ねが成長の糧であり、その日常の中で自然と華が開く。「今日はカッコいいな」クッキングで張り切る男の子の姿を見て、4年生の女の子がつぶやく。「いつもはふざけてばかりやのにな」と続く揶揄にも悪意は感じられない。素直にその子の新しい一面に驚き、感動し、認めているのだ。特別に仲がいいわけではないが、毎日を共に過ごす仲間として、子どもたちに自覚はなくても互いに認め合っている。保育者も日々、子どもたちの底力に驚き、新たな一面に出会い感動する。
PS: ここでは書ききれない子どもたちの姿をブログにも掲載しています。ぜひご一読を! 都島児童館 HP→ <http://miyakojima.or.jp/jidokan/>

非常用螺旋階段設置工事

認定こども園 都島児童センター



認定こども園 都島児童センター 錦城 栄旭

認定こども園都島児童センターは、今から3年前に全面建て替えをしました。園児約300名が過ごす園内は、毎日子どもたちのにぎやかな声が響いています。近年の自然災害や不審者による悲しい事件に胸を痛めるたびに、「施設の安全確保、安全対策におけるマニュアル作成の必要性」などが社会で叫ばれる中、都島児童センターでも「火災」「地震」「不審者侵入」などを想定した避難訓練を毎月実施しています。日々、教育・保育を行うにあたり「PLAN」→「DO」→「CHECK」→「ACTION」の確認を行い子どもたちが「より安全」に、保護者の方が「より安心」して施設を利用しただけの環境づくりを心掛けています。

今回の工事に関しても、毎月の避難訓練の反省を振り返り、「安全対策」における環境を見直す中で創立85周年記念事業として執り行うことになりました。この非常階段を使用することで、非常時における園内の混雑の解消・スムーズな避難誘導を図ります。

このような安全な環境づくりにおける「設備面」での安全確保はもちろんのことですが、保育者一人ひとりの「丁寧・親切」な関わりが子どもの一番の安心につながることを忘れず、いつまでも大切にしていきたいと思えます。

「創立85周年記念事業」として85th

都島友の会では、今年度、85周年記念事業として、各施設の改装や新事業の展開などを様々な取り組みを実施しています。乳幼児から高齢者の方々にいたるまで、各園、各施設の利用者の方に安心・安全、快適にお過ごしいただけるための環境整備だけでなく、地域に根差した法人として、いっそうの地域貢献に努め、地域との連携や地域の方に目を向けた事業を行ってきたいと考えています。今号では、85周年記念の一環として今まで行ってきた事業の一端をご紹介します。

取材・文/都島東保育園 笠井 博嗣

特別養護老人ホーム ひまわりの郷

85th ホームページを刷新!



リクルートページ

HP トップページ

今春、法人創設85周年記念事業としてホームページを刷新、多くの人の目に留まるよう情報発信に努めています。特にホームページからの人材採用を目的として、施設サイトとは別にリクルート専用ページを独立させることで人材発掘に活かしたいと考えています。またブログでピックスを掲載、利用者のご家族や閲覧者へ鮮度の高い情報提供を行うことや、問合せ受付による柔軟な応対が可能になったことが大きなポイントとなります。

ハード面では開設以来14年が経過し、空調設備をはじめ、特別浴槽やボイラー等の取替など大規模修繕が必要になってきました。今後順次、利用者の方々に快適にお過ごしいただくためのリファインやリフォームを速やかに行っていく予定です。

都島児童デイサービス

より丁寧に充実した療育を行うために



れいんぼー



都島児童デイサービスでは、「児童発達支援あつぷる」、「放課後等デイサービスれいんぼー」と2つの事業を行っています。今まで2つの事業を同じ場所で行っていましたが、新しく2カ所に分けて行うことになりました。「児童発達支援あつぷる」では未就学の児童を対象に、親子で一緒に色々なあそびを通してコミュニケーションの基礎をしっかりと身につけることをねらいとして療育を行っています。

「放課後等デイサービスれいんぼー」では療育手帳の有無に関係なく小学生以上の児童を対象に、学習支援をしています。保護者の方や小学校と連携をとりながら、子どもたちが「できた」と感じる経験が多くても、自己に繋がっていくようにサポートしています。

こども発達サポートステーション それいゆ 清水 克倫

あつぷる



2カ所に分かれて新しくなりました!



友渕地域在宅サービスステーション ひまわり

2階ホールをリニューアル!



▲2F 憩いの間



▲1F 居宅介護支援事業所 相談室

クリエーション、コンサートといったイベントに大いに利用していただけます。また6畳の琉球畳コーナー、各種マッサージ機やウオーターベットを設置した「リラクゼーションサロン」を設け、気軽に思いのままに楽しめ、一日を過ごし、身体機能の向上と心のやすらぎが得られる、新しい施設に衣替えしました。

一方、今まで2階にあった居宅介護支援事業所の事務所を1階に移動し、いっそう身近に、介護の相談、高齢者虐待や権利擁護など、地域の方々のあらゆる相談窓口となるよう努めてまいります。

開設から15年経ち、各所で老朽化が目立ってきたこともあり、この夏、利用者の皆さんにもっと快適に楽しんでいただけるスペースとなるよう、2階ホールを全面リニューアル、「広く、美しく、明るく」、開放的なスペースとなりました。講演会やレ

今、大阪の小学校では

取材／都島桜宮保育園 高瀬 めぐみ



都島児童センター竣工1周年を記念し、平成26年12月に開催した下村博文文部科学大臣(当時)の講演会で、大臣は、幼児教育の質の向上と無償化、義務教育拡大と教育内容を充実し教育力を高めること等、日本の教育再生の方向性について、保護者、保育教育関係者に重要なお話をされました。

子ども・子育て支援新制度がスタートして1年半が経過しました。当法人は0歳児から小学校就学までの一貫した質の高い教育・保育を提供しています。特に幼児に対しては、小学校就学に向けての円滑な接続に配慮し、その後の教育の基礎を培う学校教育を踏まえた教育内容の充実に努めています。

このためには、これまでも増して小学校の現状を理解する必要がある。そこで、都島区の小学校の最近の状況の中から、トピカルな事項を特集しました。

学校選択制

学校選択制は、市立小学校に入学する際に住所地により定められた学校以外の学校も、本人・保護者の希望により、区内の隣接する通学区域の市立小学校から選択できるという制度です。

例年、9月に区役所から届けられる「学校案内」や、9月～10月に小学校が実施する学校公開などに参加していただき、選べる範囲から通学する学校を選択していただきます。10月末頃までに、保護者が区役所へ希望調査票を提出することになります。

各小学校では、通学区外受入れ可能人数が定められていますので、希望者が多いと抽選になり、12月下旬には区役所から「就学通知書」が送付されます。

保護者の選択理由としては、「校区の学校」「兄弟が通学」「友だちが同じ学校へ行く」「通学上の安全」という項目が、学校選択基準の上位を占めています。

ICT機器を活用した授業

平成28年4月から、市立小学校ではタブレット端末等のICT機器を活用した授業がスタートしています。

機器の活用により、視覚的にも分かりやすい授業を行うとともに、児童が自ら考えたことを発表したり、グループやクラスで話し合ったりする学習を充実するものです。そして児童が「自分で考え判断する力」「自分の考えを豊かに伝える力」を育成します。

また、様々な分野でICT利用が必要不可欠な時代を迎え、「最新のICT機器を活用する力」を備え、21世紀をたくましく生き抜く子どもを育てようという教育が推進されています。

特別支援学級による学習

認定こども園や保育園と同じように、小学校でも障がいのある子どもたちも「共に学び、共に育ち、共に生きる」ことを基本とした教育が推進されています。

小学校では障がいの状態に応じて、弱視、難聴、知的障がい、肢体不自由、病弱・身体虚弱、自閉症・情緒障がいの特別支援学級が設置されています。児童の障がいの状況を踏まえ、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」により、ニーズに沿った指導・支援が行われているのです。

また通常学級の児童とも交流し、共に学ぶ授業や活動が実施されています。

授業参観をしたところ、支援を受けながら通常学級で授業を受けている児童。静かに席に座っているのが難しい様子の時は、特別支援学級の先生が側につき、クラスの友だちも児童が授業を受けやすくできるように声掛けをしたり、サポートする姿が見られました。

習熟度別少人数授業

児童の学習内容の理解度や、技能の取得の程度等、個に応じた編成された少人数グループでの授業のこと。大阪市では小学校3～6年生の国語・算数の授業で実施しています。

また、複数の教員が協力して1学級の授業を行うティームティーチングや、班ごとに分かれて行うグループ学習など、学校の課題や教科の特性に応じ、様々な指導方法による授業を実施しています。

これらの取組みにより、児童に基礎的・基本的な学習内容を確実に身につけさせ、「できる喜び・わかる喜び」を実感し、確かな学力の向上を目指しているものです。

区内の或る小学校では、習熟度別に3コースに分割しています。学習により到達する目標や進度は同じですが、授業の支援や手だてが異なっています。

①のびのびコース

先生の助言や支援をうけながら、問題を解決していく。

②うきうきコース

先生の助言をもとに、友だちと協力しながら問題を解決していく。

③わくわくコース

できるだけ先生の助言や支援を受けず、自分たちの力で問題を解決していく。

習熟度別授業を受けている児童の感想を聞くと、3年の時はコースの選定を家族と相談して決めたが、4年の時は自分で決めたとのこと。のびのびコースで先生が優しく教えてくれるので授業が理解し易いとのこと。

施設探訪

日本の保育事業のルーツ？

法人本部の会議室に、少子部螺贏（チイサコベノスガル）が、子どもたちと遊ぶ様子を描いた大きな額（90cm×150cm）が掲げられています。

この額は、比嘉正子初代理事長と親交のあった故西村真琴氏（理学博士・毎日新聞厚生事業団理事長）から、昭和16年、都島幼稚園創立10周年記念にあたり、氏自ら模写したものを寄贈いただいたものです。

絵画の中に、日本書紀にある少子部の由来が記されています。それによると、5世紀後半の天皇である雄略天皇が養蚕の振興を図るため、役人である螺贏（スガル）に「国内の蚕を集めよ」と命じたところ、スガルが誤って児（嬰子）を集めてきました。

スガルは蚕（こ）と児（こ）を間違えたのです。天皇は大笑いして、スガルに「お前自身で養い、教育するように」と命じ、少子部連という姓を与えたと書かれています。少子部スガルは、皇居の垣の近くで子どもたちを養育しましたが、これが我が国の保育事業の始まりといわれています。

ほのぼのとしたユーモラスな絵画であり、本部へ来られた時には、ご覧ください。



▲少子部神社／奈良県橿原市飯高町 372

なお、奈良県橿原市飯高町には少子部氏に係る神社が東西100mほど離れて2社鎮座しています。両神社とも子部（こべ）神社と呼ばれていますが、東側（A社）にある子部神社を「子部神社」（コベ）、西側（B社）のそれを「螺贏神社」（スガル）として区別しています。一度訪ねてみてはいかがでしょう。

本部事務局 局長 奇瀬 博光



▲少子部螺贏 前賢故實（ぜんけんこじつ）画



▲本部会議室に掛けられた西村真琴氏の絵額

今号の表紙



- ① 都島友渕乳児保育センター
- ② 認定こども園 都島児童センター
- ③ 都島児童館
- ④ 特別養護老人ホーム ひまわりの郷
- ⑤ 都島桜宮保育園
- ⑥ 都島乳児保育センター
- ⑦ 認定こども園 都島児童センター

編集後記

スーパーマーケットの食品売り場で並ぶサンマを見て秋を感じるには、少々無理があるほど今年の残暑は厳しかった。

近年、ハロウィンが秋の風物詩として定着しつつあるが、昭和生まれの私たちにとってはかぼちゃのオバケを見て秋を感じることはない。それは、懐かしむ風景がないからだろう、と連載コラム「ネットのきもち」(p.9掲載)の新米のくだりを読んで思っ。風物詩は、ただの季節のアイコンではなく、言葉と合わせて想起する風景があるのだ。

そんな白々の光景や子どもの姿を伝えたくて筆を執っても、限られた字数と未熟な腕ではどこかで見えたことのある言葉の羅列にしかならず歯痒い。せめて子どもたちにとっては「何かしらの帰る場所」となることはおこがましくとも、いつかここで過ごした日々を「かぼちゃのオバケ」と一緒に懐古されることがあれば、それで十分とも思っ。

ところで、寿司屋では新米に古米を混ぜて炊くらしい。同じ食材でもそれぞれの生かし方があるのだ。サンマはやはり塩焼きで目黒に限る？ いや、新鮮な刺身を叩いてなめるつにするのもオツではないだろうか。

都島児童館 岸本 貴裕

